

〈彙報〉

平成八年度 国文学科活動報告

文学遺蹟めぐり―宇治方面―

日時 平成八年五月十七日(金)

行程 宇治・橘島(集合・点呼・注意事項)―平等院鳳凰堂見学―宇治観光開発にて解説・昼食―十三重塔前

―集合・記念写真撮影―宇治上神社―三室戸寺見学―解散

対象 国文学科一年生

今年度の文学遺蹟巡りは二年ぶりに宇治を訪れることになった。五月とも思えぬ暑い一日で、普段歩き慣れていない学生諸姉にとって「苦痛」とも云える強行軍となった。とはいえ、世界文化遺産に指定された平等院鳳凰堂・宇治上神社の荘厳な趣きには、ひとかたならぬ感慨をもよおすことができたとと思う。王朝文学に思いを馳せる、そんなひとときであった。

国文学科講演会

日時 平成八年六月二十五日(火) 第三・四時限

会場 南港学舎講堂

講師 関西大学文学部教授

片桐 洋一先生

演題 「なぜ古典文学か

―私の古典文学研究―」

対象 国文学科一・二年生全員

国文学科では、毎年の行事として学外の先生をお招きし、専門の分野のお話を伺っている。片桐洋一先生は、「伊勢物語の研究」や「小野小町追跡」など、王朝文学に関する第一人者であり、今回の講演会では、そうした先生の学問の軌跡に関わるお話を伺うこととなった。旧満州で敗戦の日を迎えられた先生が、なぜ「文学」の世界へすすむことになったのか。こうした問題は、日頃「文学」というものを、取り立てて意識することもなく学んでいる学生諸姉にとって、ある意味で大きな「衝撃」であったに違いない。なぜ自分が「文学」をするのか、この講演会を契機として、演習にも積極的に取り組む学生がでてきたのは、大変収穫であったと思う。

# 国文学科芸能鑑賞―狂言鑑賞―

# 平成八年国文学科ゼミ活動報告

日時 平成八年十一月十三日(水)

午前十一時開演

場所 大概能楽堂(大阪府中央区上町A番七号)

演目 狂言解説

対象 国文学科一・二年生全員  
狂言 「灌ぎ川」 「蝸牛」 「附子」

本年度の芸能鑑賞は、狂言を観る会として実施した。本来演能の合間に演じられるものであった狂言を、木村正雄師の解説を受けつつ狂言ばかり鑑賞するという贅沢な試みの催しとなった。当日のシテ木村師のお話は、学生参加のワークシヨップをまじえた興味深いものであった。初めて能舞台に立った学生は、得がたい体験をしたことになる。新作狂言「灌ぎ川」に始まり、古典的名作「附子」に終わるまで、鑑賞の時間は、笑いのうちに、瞬間にすぎた。狂言が、笑いを主とするものであることから、学生たちにも親しみやすく、気楽に観ることができたのだろう。後日、木村先生から「学生さん達の鑑賞態度は、非常によかった」との便りを頂戴した。ひとえに木村先生のお陰と、感謝申しあげている。

〈柿谷ゼミ〉

日程 五月二十六日(日) 宇治 平等院  
宇治上神社

七月十四日(日) 平安京遺蹟

神泉苑 京都御所  
祇園会 紫式部邸跡

十一月二十三日(土) 嵯峨野

〈北谷ゼミ〉

日程 八月十六日(金)・十七日(土)

萬葉集ゆかりの地を訪ねて  
因播国(鳥取県) 国庁跡方面

〈鳥井ゼミ〉

日程 十一月十日(日)・十七日(日)

谷崎潤一郎記念館・倚松庵

今年度、本学において次の研修会、学会が開催された。

私立短期大学協会研修会

日時 五月三十日（木）

行程 近鉄松阪駅集合―本居宣長記念館見学―昼食  
（八千代）―斎宮歴史博物館見学―近鉄松阪  
駅解散

日本近代文学会関西支部春季大会

日時 六月八日（土）午後一時から六時

場所 相愛女子短期大学 厚生施設棟小ホール  
発表題目 一、〈耽溺〉に病む文士

関西学院大学 奈良崎英穂氏

二、谷崎潤一郎『刺青』論

大阪教育大学大学院 中谷 元宣氏

三、『痴人の愛』の奈緒美

立命館大学大学院 磯田 知子氏

四、宮沢賢治「山男の四月」論

神戸山手女子短期大学 信時 哲郎氏